

**周防大島町
まちづくりワークショップ
報告書**

令和2年11月

はじめに — まちづくりワークショップの概要 —

1. まちづくりワークショップの目的

次期周防大島町総合計画の策定にあたり、町の現状及び今後のまちづくりについて町民の生の声を聞き、政策形成段階から、町民の意見を取り入れた計画づくりを進めること、併せて参加者の満足度が十分得られるワークショップとすること等を目的とします。

【実施日時】

対象地区	日付	時間	会場
東和	令和2年9月3日(木)	19:00～21:00	東和総合センター
久賀	令和2年9月10日(木)	19:00～21:00	久賀総合センター
大島	令和2年9月17日(木)	19:00～21:00	大島文化センター
橘	令和2年9月24日(木)	19:00～21:00	橘総合センター
全地区	令和2年10月1日(木)	19:00～21:00	大島文化センター

2. まちづくりワークショップの意見の把握・集約について

- 町全体の現状をさまざまな立場の住民から引き出し、把握すること。
- 課題の解決方法や、良いところを延ばす方策について町民自身に考えてもらうこと。
- 方策についての町民意見を、キーワード等わかりやすい形で集約すること。

※集約についてはそれぞれの分野において

課題・問題点

→今後、取り組むべきこと

→実現のための仕組みや役割分担の検討

の構成で本報告書にて整理する。また、限られた時間内で実施するワークショップの性質上、時間の制約及び課題として解決策が難しい等の理由で意見が出なかった箇所については、今後の検討課題として把握できるようにブランク（空白）で記載する。

3. まちづくりワークショップにおける役割分担

●町民

ワークショップの主役。参加者の感想や意見が出しやすい場づくりを行う。

●事務局職員

ワークショップ開催に関する案内・情報提供。

●コンサルタント

ファシリテータとして、中立的な立場で議事進行に努める。

4. まちづくりワークショップの基本的な進め方

ファシリテータがワークショップの進め方・テーマについて説明する。

各グループリーダーが、テーマに沿って参加者からの感想や意見を促す。

参加者は各回のテーマにしたがって、グループごとに自由に感想・意見を述べる。
書記役はポストイットに記入して、台紙(模造紙等)に貼り付ける。

参加者は他のグループを自由に見学し、感想・意見を述べる。
書記役はポストイット(別の色)に記入して、台紙(模造紙等)に貼り付ける。

参加者は元のグループにもどり、他のグループの参加者から
出された意見を確認する。

グループごとのとりまとめを行い、グループリーダーが発表する

ファシリテータがまとめる

※実施要領の詳細については、本報告書「参考資料」に記載。

目 次

I グループ別とりまとめ	1
1 まちづくりグループ	1
2 医療・福祉グループ	12
3 教育・文化・人づくりグループ	18
II 地区別とりまとめ	20
1 東和地区	20
2 久賀地区	21
3 大島地区	22
4 橘地区	23
5 全地区	24
II 参考資料	25

Ⅰ グループ別とりまとめ

とりまとめの作成にあたっては、「まちづくりグループ」「医療・福祉グループ」「教育・文化・人づくりグループ」の3つのグループごとに、課題・問題点、今後取り組むべきことについて意見があった内容を取りまとめたものです。

1 まちづくりグループ

本グループでは、まちづくりについて議論を行なった結果、「危機管理」「空家」「生活イライラ」「意識の問題」「高齢者への対応」「教育」「定住問題」「観光産業」「環境」「交通インフラ」「産業振興」「若い世代を呼び込む」「地域づくり目標」の分野から、課題・問題点、今後取り組むべきことについて意見が出ています。

(1) 危機管理

【課題・問題点】

- ・災害時の自治会の在り方
- ・地域の高齢化とともに地域の安全性が失われている（緊急時の対応）
- ・緊急時の連絡先など個人情報の在り方（独居老人）
- ・個人情報の問題があるが要支援者の把握は必要
- ・災害時の要援護者がどこにいるのか？移動の支援の方法は？
- ・必要物品（食事、排泄）は？

【今後、取り組むべきこと】

- ・災害時の自治会の役割の明確化
- ・要援護者への対応方法の確認
- ・災害対応トレーニング練習
- ・災害に強い地域づくり（高齢者の避難対策が重要）
- ・いざという時は逃げる！



(2) 空家

【課題・問題点】

(空家)

- ・無人の廃屋をどうするのか？
- ・朽ちかけた古い家が危険
- ・活用出来そうな空家が空いたままになっている
- ・空家が多いのに借りれない
- ・貸せない貸さないが多い
- ・箱ものの活用どうにかならないの？

(その他)

- ・住民の高齢化による廃園が増えており、山に勢いがなくなって行く様に見える
- ・相続人のいない田畑、山林の有効活用方法は？
- ・空地の草刈りの問題
- ・畑が雑草地である
- ・休耕田（畑）の問題 雑草
- ・廃校の問題

【今後、取り組むべきこと】

- ・各集落ごとで空家情報を共有して提示する
- ・空家バンクとして情報の共有化、町のホームページを活用する
- ・空家を是非格安で貸して欲しい
- ・固定資産税をすごく上げて管理意識を高め、それを財源に空家の手入れする
- ・「管理しなければ」と持ち主に思わせる！
- ・町の責任で空家の整備活用をして欲しい
- ・空家を整備して役場職員が住めば良い
- ・空家で利用して移民政策を行う（外国から）
- ・空家を学校教職員の住居にしては？
- ・廃校などを第2の道の駅として活用する。（千葉で成功例）

【実現のための仕組みや役割分担の検討】

- ・地域衰退させないため廃校を新たな学校にする
 - ①ワーケーション×②修学旅行×③デュアルスクール（都市と地域）
- 新たな価値の創造：（地域）子どもが増える（社会）21世紀の学校づくり

(3) 生活イライラ

【課題・問題点】

- ・ 買い物の不便さ
- ・ 島の端に行く程、お店が少ない
- ・ 移動店舗はあるが選択の幅が狭い
- ・ 高齢者が多く交通機関の利便性の確保
- ・ 生活道の（雑草の整理）整理
- ・ 道路の美観問題
- ・ 道端、路側帯が草ぼうぼうで荒れた印象、観光客にも悪印象なのではないか
- ・ 海浜の掃除を町としても援助してもらいたい
- ・ 車がスピードを出すので横断が危険
- ・ 部落の赤線青線道路の工事費を町で負担してほしい

【今後、取り組むべきこと】

- ・ 交通網の整備
- ・ 生活道の整備
- ・ 高齢者への交通支援
- ・ 地域での環境美化への取組

【実現のための仕組みや役割分担の検討】

- ・ 自動運転バスの普及



(4) 住民意識の問題

【課題・問題点】

- ・地域のお祭り（秋祭り、盆踊りなど）が無くなって寂しい
- ・我が地区でも高齢化が進み行事などが大変だ
- ・地域の事業に参加意欲がない
- ・文化的事業が出来ない
- ・地域行事への参加減少、興味が薄れる
- ・人々の集う場所がなくなりつつある
- ・人が集う共通点が失われつつある
- ・地域の担い手が高齢化すると共に不在となっている
- ・各種団体が単独で活動
- ・人口減→地域単位で各種団体をひとつにまとめるコミュニティが必要
- ・地域活動が各種団体協働で取り組むシステムづくり
- ・住民が今日を生きることにゼイゼイしており共助の意識（精神）が欠けている
- ・自治会の活動や役員、会員の問題意識の弱さ
- ・日頃の対話不足、もっと身近な問題に光をあてるべき
- ・都市部と周辺の格差を埋めるような意識や方向性
- ・ゴミの仕分けが出来ない

【今後、取り組むべきこと】

- ・参加したら「楽しい」「得する」と思える地域組織
- ・地域住民参加のイベント開催・地域活動の積極的な PR
- ・テクノロジーの活用
- ・ボランティアリーダーの育成
- ・日頃の対話する意識づくり
- ・地域単位でのコミュニティ協議会→各種団体を取りまとめ大きな力に

【実現のための仕組みや役割分担の検討】

- ・地域のサポーターさんの発掘

(5) 高齢者への対応

【課題・問題点】

- ・お年寄りの買い物が大変
- ・老人の生活を安心出来るシステムに
- ・楽しみ・学びの場←講師になる人材が少ない？
- ・リタイヤした者の活かし方（情報格差による問題）
- ・高齢者が出かけられる場が欲しい
例) 森地区の会館：畳敷きで過ごしづらい 駐車場がない
- ・災害時、介護人がいない場合、どのように助けていくのか？
- ・買い物弱者に対する対応

【今後、取り組むべきこと】

- ・乗合タクシーのような地域毎の用事、買物支援
- ・有償ボランティアによる個人の車の活用
- ・高齢者や障害者がみんなと一緒に共生する社会
- ・若者が住みやすいと思える施策
- ・町民同士の交流の場づくり

【実現のための仕組みや役割分担の検討】

- ・有償ボランティアによる個人の車の活用
- ・町民同士の交流の場づくり

(6) 教育

【課題・問題点】

(学校の統廃合)

- ・令和2年で中学校2校、小学校1校閉校、令和3年以降に森野小、城山小閉校
- ・久賀の統合中学をもり上げて大島の文化の中心となる環境づくりが必要である
- ・一定数以上の学校が必要。旧4町に1校ずつ
- ・将来的に小学校が1つになる方向と聞いているので通学方法や家族の負担等を具体的に話せる場を作りたい
- ・小・中学校の統合に不安、通学・部活について
- ・中学校の統廃合計画はできたが、小学校はどうなるのか？
- ・統合後の校舎利用→地域の集会所

(子どもたちの教育)

- ・大島の古い文化を大切に
- ・本土の中央規模校の教育を島の子に
- ・複式学級、小規模学級
- ・コロナ禍の時代で学力の低下が懸念
- ・貧困家庭への学習の支援が必要

(その他)

- ・いじめ等のメンタルケア
- ・児童減による教育活動への不安から島外の学校へ
- ・非常時、地域と学校の繋がりや嫌な思いをした。
上からの命令 どうにかならないの？

【今後、取り組むべきこと】

- ・統合後の校舎を地域に開放（地域の集会所）
- ・児童生徒数が一定数以上の学校に
→統合による教育力、子供同士が学びアップ
- ・オンライン授業
- ・アプリ+寺小屋ー昔の遊び、学び
- ・社会教育活動の復活、リーダー
- ・入りやすい歴史・文化の入口（まずは人の話を聞く）※村上水軍の歴史

【実現のための仕組みや役割分担の検討】

- ・地域単位でのコミュニティ協議会各種団体を取りまとめ大きな力に
- ・社会教育活動の復活、リーダー
- ・統合後の校舎を地域に開放（地域の集会所）

(7) 定住・人口問題

【課題・問題点】

(定住問題)

- ・ 島離れ
- ・ 定住希望者の要望にこたえる政策（家・農業・農地…など）
- ・ 若者定住しやすい町→本当に元気やにこにこ安心があるのか
- ・ 若者の働く場が少ない

(人口問題)

- ・ 人口が少なくなり近所の支え合いが難しくなっている
- ・ 人口減と向き合う、高齢化の問題
- ・ 少子高齢化により地域の祭りなどの行事が衰退
- ・ 底辺（子供）が少ない

(その他)

- ・ 介護保険をかけていますが、現在超高齢化少子化の時代になっています。50年100年後になった時、介護保険をかけてくれる人がいません。日本は将来人口が減ってくると思います。これをくいとめるには新婚夫婦に沢山子供を産んでもらわないといけません。その為には大島に若者夫婦に移住して子供を沢山産んでもらいたいです

【今後、取り組むべきこと】

- ・ 移住者を増やす
- ・ 若い世代の生活環境（教育・医療）を整える
- ・ 定住希望者へ対応したコンサルタントの支援
- ・ 農業専門家を知っている
- ・ 農地の空き情報を知っている
- ・ 家の売買、賃貸の知識
- ・ 企業支援（補助金）
- ・ 家の売買、賃貸の知識
- ・ 新婚夫婦にたくさんの補助金を補償してあげて欲しい

【実現のための仕組みや役割分担の検討】

- ・ 若い世代の生活環境（教育・医療）の支援をおこなう

(8) 観光産業

【課題・問題点】

- ・インバウンドに対する島内対策
- ・観光客を誘引するスポットの特定する
- ・観光地の整備をしてコースを作る
- ・観光協会の場所が島の真ん中なので、外からくるとたどり着くまでに遠すぎる観光スポットがある
- ・観光に対する公共交通機関（特にバス）の利便性の改善
- ・観光客の食べる店が少ない
- ・観光産業のつながりを活用する
- ・海を利用した観光が無い
- ・観光の人の流れ、輸送、宿泊、等のロジステクス
- ・大島で釣れた魚が買えない？
- ・大島の文化が伝えられているのか
- ・島外の人に来て金も落とさない
- ・安心安全な食のあり方
- ・有機野菜を認めてブランド化
- ・島の良さを外の人に伝えるしくみづくり
- ・外から人を呼ぶ施設、呼ぶ合言葉がほしい（瀬戸内のハワイなど）

【今後、取り組むべきこと】

- ・観光スポットを整備する
- ・文化事業の開催（瀬戸内国際芸術等、アワサング展示館）
- ・安心安全な食、有機野菜のブランド化
- ・観光に関しては、町とある程度切り離し民間の団体に動けるようにする
- ・ハワイに渡った人たちが漁業をおこして水産会社を作った話から、漁師さんたちの取組だけでは、できないものがある
- ・先人の知恵

【実現のための仕組みや役割分担の検討】

- ・地域に合った農産物を作り直す
- ・無添加、無農薬など体に優しい食べ物の入手ルートを開発

(9) 環境

【課題・問題点】

(環境問題)

- ・人のせい、人工物のせいで自然のバランスが崩れている
- ・海に魚がいない
- ・海のゴミが多い
- ・害獣（いのししなど）により、畑づくりへの意欲が低下した高齢者が多い
- ・景色の良い海岸や山にポイ捨てのゴミがすごく多い
- ・荒地になる管理されてない土地が多い

(居住環境)

- ・(久賀) ビー玉海岸の駐車場から海岸に渡りにくい
- ・(久賀) 国道を走る車のスピードが速くて、横の道に入りにくい（車運転中）
- ・歩道の整備が出来ておらず、危険な所があります
- ・バス停が危険な所があります
- ・歩道が斜面で狭いし歩きづらい
- ・(久賀) 下水工事後の中道がガタガタで車が走りにくい
- ・ゴミ捨て場所が遠い
- ・大雨・台風の度に道がくずれ停電。何とかならないのか？

(その他)

- ・水の値段が高い
- ・電気、水道、情報網港（ドーク）

【今後、取り組むべきこと】

- ・人工物をもう一度自然に近づける取組み
- ・観光対策、若者定住対策の推進
- ・中学校統合をチャンスにし大島の文化の中心としての環境作り
- ・住民パワー（できれば若者もいたら…）・イノシシ肉のジビエ

【実現のための仕組みや役割分担の検討】

- ・ジビエによるブランド化。※罨、捕まえる人を増やす

(10) 交通インフラ

【課題・問題点】

- ・バスの便が少ない
- ・交通の便（バス）高齢者
- ・道路側の伸びすぎた木が危険
- ・空家の整備
- ・バス料金が高すぎる！
- ・30年前に計画した新しい道が要るのか？

【今後、取り組むべきこと】

- ・使いやすい乗り合いタクシー
- ・気軽に連れて行ってくれる人がいるとよい
- ・バス料金の補助
- ・スクールバスも防長バスと提携して利用しやすい便数や補助があればよい

(11) 産業振興

【課題・問題点】

- ・産業が次々に衰退している。特に1次産業が衰退
- ・商店街に活気がない
- ・個人商店の減少
- ・シャッター通りの問題だけではない。本質は何かを求めている
- ・(久賀) 商店街のどの店が開いているのかわかりにくい
- ・どんどん商店がなくなる現実をとらえる
- ・久賀の本当に良い点を見つめ直す
- ・コンパクトな町のモデル地区にふさわしい町づくり
- ・長浦のテニス場を自由に利用したい
- ・長浦のサッカー場のナイター設備をしてほしい

【今後、取り組むべきこと】

- ・町の施設の活用
- ・商店街の活気を取り戻すための取組

(12) 若い世代をよび込む

【課題・問題点】

- ・働く場がない

【今後、取り組むべきこと】

- ・仕事、住む家の確保
- ・若い世代の生活環境（教育・医療）を整える

(13) 地域づくり目標

【課題・問題点】

- ・地域づくりの目標を各地区毎に定めるか

【今後、取り組むべきこと】

それぞれの地域の地域づくり目標をつくる



2 医療・福祉グループ

本グループでは、産業・経済・観光について議論を行なった結果、「移動」「高齢者福祉・医療」「子育て・出産」「介護・障害関係」「医療の担保」「食の安全」「行政のサービス」の分野から、課題・問題点、今後取り組むべきこと、について意見が出ています。

(1) 移動

【課題・問題点】

(通院通学・買い物等)

- ・病院までバスで行かれている人が、乗り遅れて行けない人がいると聞きます
- ・病院にすぐに行けない（車がない）、老人の足（車）がない
- ・病院までの公共移動手段が足りない
- ・各病院での送迎が有るが曜日によって行けない日有り
- ・大島は病院へ行くのに送迎有りで大変助かる。他は自分のお金で病院へ行く
- ・子どもの通学問題（沖カムロ→久賀）
- ・高齢者は、スーパー等買い物に行けない
- ・車の免許返納によって、買物、医療等が難民化している
- ・免許返納後交通に困る

(公共交通ほか)

- ・バス（ワンコイン）を小型化して回数を増やしてほしい
- ・車に乗れない高齢者の移動手段が少なく限定的
- ・交通の便（バス）が悪い
- ・4月から道の駅までしかバスが通わないのでその対策を（今のところどんな対策が用意、検討されているのか）
- ・お年寄の運転が危ない

【今後、取り組むべきこと】

- ・交通の流れを再確認する
- ・交通→バス、TAXI・救急受け入れ病院
- ・人と関わる場所（機会）が少ない
- ・一人暮らしのサポート体制（ネットワークの見直し）
- ・高齢者にはゴミの分別が難しすぎる
- ・入院している人の介護について洗濯オムツ等必要な場合に車にのれないのでバス等で行く交通費
- ・コミュニティバスのような安価で小回りのきく交通の整備

(2) 高齢者福祉・医療

【課題・問題点】

(高齢者福祉)

- ・老老介護が深刻、ヘルパーの増員が望まれる
- ・老人だけの家庭が多いのでこれから介護が大変だ、皆で助け合っていきたい
- ・生きがいを求めて老人クラブより一人ひとりが趣味や生涯学習の仲間を作ることが大切
- ・高齢者が病院の選択に迷っている、社会福祉も頑張っていますが、もう少し頑張してほしい
- ・高齢者の一人暮らしが多いので、民生委員やサポートをしている人がいますが、その方が高齢になった場合の引き継ぎ方法等をオープンにして欲しい
- ・高齢者を施設に入所させることの是非。はたして不幸なことでしょうか

(医療)

- ・町内1病院にして総合的に充実を図る必要があるのでは？
- ・民生委員の方が認知できない独居の方への対応
- ・福祉科が町で出来ているのに認知が低い
- ・かかりつけ医師になりにくい

【今後、取り組むべきこと】

- ・スクールバスや病院バス施設送迎バスの有効活用
- ・高齢者の事故防止
- ・指導者を養成するシステムが必要
- ・高齢者施設のPRと高齢者の為ことをアピールする
- ・健康寿命を延ばせるように社会教育の充実をはかること
- ・健康生活を送る為の活動、講座（ちょび塩）（ゆるたいそう）の増加
- ・民生委員、自治会、行政の連携が大切
- ・金融リテラシーを向上してもらい余裕ある老後を

(3) 子育て・出産

【課題・問題点】

- ・ 出産が不安 出産出来る病院がない。
- ・ 小児科病院が少ない
- ・ 子供の数が少ない
- ・ 一人一人の子供達が関心のある事を伸ばしていける環境作り。
- ・ 郷土の礎を作った大切な人をどうしたら、大人も子供も形にできるか
- ・ 廃校になった校舎の活用をどうするのか
- ・ 学校の統合により集まり、楽しみの拠点になる場が減ってしまうのではないか
- ・ 子供は少ないが道路を良くしてほしい

【今後、取り組むべきこと】

- ・ 出産の選択肢を増やす、助産師の充当
- ・ 廃校校舎の有効活用について生徒、一般の方にアイデアを出してもらう
- ・ 大島郡全体で小、中、高一貫した仕組み作り
- ・ フリースクールがあるとよい
- ・ みかんの資料館の設置



(4) 介護・障害関係

【課題・問題点】

(介護)

- ・住んでいる近くに高齢や障害で困っている人がいるかどうか知らない
- ・老親介護→子供の所へ転出
- ・生活は他人に迷惑をかけること
- ・子供のいない独居老人対策
- ・介護施設が規制に対しきびしくなっており利用しづらくなっている気がする
- ・一人暮らしが多くなっており介護する人が重労働になっている
- ・介護などのサポートを受けることに抵抗のある高齢者がとても多い
- ・家族が遠くにいてサポートが十分にできない
- ・介護される側の人の子供もが遠くにおり確認が取りづらくなっている
- ・介護誰がしますか？
- ・地域性を大切に。都会の模倣は無理では

(障害)

障害の有る方が島外へ出る機会（仕事）が多く接することがない

- ・障害のある子どものサポートする支援がとても少ない
- ・障害者の働ける場所がない
- ・障害者が外に出て伸び伸びと活躍する場がほしい
- ・障害を持っている方が行政に居ない
- ・住み分けによる弊害

【今後、取り組むべきこと】

- ・独居老人対策 認知症老人対策 老親介護への対応
- ・スペシャリストの移住を支援
- ・シルバー人材をもっと活用させる仕組みづくり
- ・障害のある子どものサポートする支援

(5) 医療の担保

【課題・問題点】

- ・人口の半分が女性なのに婦人科がある病院がない
- ・病院数少ない、内科、外科、眼科等の課が少ない
- ・救急医療体制の強化が必要
- ・入院できる病院、ベッド数が限られている
- ・安心安全が担保されていない医療
- ・曜日で受診出来る種類が決まっているのでその曜日に合わせないといけない
- ・(町内の) 将来の医療従事者政策が乏しい→看護学校のみ
- ・医療関係で働く人が足りていない
- ・予防をするなどの健診の関心度が低い
- ・幸せに暮らす→健康=検診ではないのでは？
- ・限られた予算の使い方では無理がある。
- ・役場では無理で結局周囲の人の善意を頼るしかない
- ・緊急時の対応はどこに頼ればいいのか？
- ・一人住まいのお年寄りの安否確認してほしい
- ・老人施設をもっと増やしてほしい、入りやすくしてほしい
- ・高齢になった時の為、入所する施設がいっぱいで入所待ちの人が多い
順番待ちと聞いているが？

【今後、取り組むべきこと】

- ・医療体制の充実
- ・医療関係者の拡充
- ・独居高齢者の見守り体制の整備
- ・きめ細やか対応と「当事者意識の欠如」からの脱却

(6) 食の安全

【課題・問題点】

- ・無添加、無農薬など体に優しい食べ物を入手しにくい

【今後、取り組むべきこと】

- ・地域に合った農業物を作り直す

(7) 行政のサービス その他

【課題・問題点】

- ・ 行政サービスの一本化→住民サービスの質の向上
- ・ サービス内容が周知されていない、知らない
- ・ 公共の施設でうまく利用されている場所が少ない
- ・ 町の施設が活用出来ていないように思います
- ・ 情報提供が少ない
- ・ 他市町と同様の補助でも本町では分かりにくい
- ・ 行政（役場）の社会的弱者への支援等の在り方（いきいきセンターなど）
- ・ 役場の人々が島に住んでいない
- ・ 住民が気軽に運動出来る場が欲しい→実はすでに有る
- ・ 交通弱者が多い、病院への通院の問題
- ・ 若いのに仕事をしていない人がいる
- ・ 家にとじこもりがちで交流の少ない人の支援が必要なのでは？

【今後、取り組むべきこと】

- ・ 行政サービスを上手く発信する仕組み
- ・ 担当課／情報発信のみを行う課を設ける
- ・ 役場の職員は島内在住者に限る
- ・ 支所でも本庁と同じサービスで受けられるようにする



3 教育・文化・人づくりグループ

本グループでは、医療・福祉について議論を行なった結果、「産業 伝える」「子供・遊び」の分野から、課題・問題点、今後取り組むべきこと、について意見が出ています。

(1) 産業 伝える

【課題・問題点】

(地域振興)

- ・事業の高齢化、継承者不足（みかん、漁業、商業他）
- ・プロの技の伝承（漁師とか）
- ・周防大島にある「もの・こと・ひと」を伝える場づくり
- ・歴史・文化を語る人の高齢化
- ・昔の野球や介護の先進の島に代わりうる文化とは？
- ・農、漁業がふるわず一次産業の人づくりが難しい
- ・イノシシ被害による産業のダメージ
- ・海の資源減少による漁業の衰退

(その他)

- ・某島人口の増加
- ・地域の特性を生かしたエンタメづくり

【今後、取り組むべきこと】

- ・島の良さを外の人に伝えるしくみづくり
- ・祭りイベントなどの継続
- ・人口を増やすための、インフラ整備（下水道）
- ・コンポストの導入
- ・お金を稼げるところへの資本投資（より稼げる施設へ）
- ・地産地消
- ・企業誘致を試みてはどうか

【実現のための仕組みや役割分担の検討】

- ・あるモノを活かして価値を高める。仕事にしていく
周防大島だからこそできる仕事を生む。島の魚をより高く売るための工夫
周防大島を体験させる（農業・つり）

(2) 子供・遊び

【課題・問題点】

- ・ 子ども、若い人の楽しめる場が少ない
- ・ 少子化のため子ども同士のふれあいが少なくなっている
- ・ 遊具の劣化
- ・ 子供の遊び場がない→団体スポーツが成立しない
- ・ 少子化のためチームを組んでするスポーツに限られる
- ・ 少子化のため同級生同士の関わりが減っている
- ・ 登校拒否がおこらない様な学校
- ・ コロナ禍のため子供の力を生かしきれない
- ・ 子供たちの遊び場は？
- ・ 通学が遠くなることによる子どもと地域の交流不足
- ・ 登下校時の安全対策 街灯など
- ・ 小中学生の学力レベル？
- ・ 群外から児童生徒を呼べる魅力ある島とは？
- ・ ふるさと教育の不足
- ・ 一人一人の子供達が関心のある事を伸ばしていける環境作り
- ・ 郷土の礎を作った大切な人をどうしたら、大人も子供も形にできるか
- ・ 山・水源に関わる場を知る事

【今後、取り組むべきこと】

- ・ 子供を増やすため産婦人科の設置
- ・ 廃校校舎の有効活用について生徒、一般の方にアイデアを出してもらう
- ・ 大島郡全体で小、中、高一貫した仕組み作り
- ・ フリースクールあるとよい
- ・ 地域学習の実施
- ・ 周防大島の良さを子供に伝えるカリキュラム
- ・ みかんの資料館の設置
- ・ 水の届くまでを学ぶ教育体験会

II 地区別とりまとめ

「東和地区」「橘地区」「大島地区」「久賀地区」「全地区」5地区ごとに、地域性を見るために、意見があった内容のキーワードをとりまとめたものです。

「全地区」に関しては、参加者がワークショップに必要な人数に達していなかったため、参加者に聞き取りを行いキーワードのみの掲載になります。

1 東和地区

(1) キーワード

	キーワード
まちづくり	「空き家」「危機管理」「生活イライラ」「いのしし」「意識の差」 「高齢者への対応」「教育」
医療・福祉	「移動」「人口（支え合い）」「介護」「障害」「医療」
人づくり	「産業 伝える」「子供・遊び」

(2) 共通する課題

共通する課題として、人口の減少からくる担い手不足と技術の伝承(継承者不足)、地域の支え合いができない、高齢化による移動の問題、健康意識の低下が課題としてあがっています。冠婚葬祭などを含む社会的共同生活や集落の維持が困難になりつつある、という共通の課題があります。



2 久賀地区

(1) キーワード

	キーワード
まちづくり	「地域づくり目標」「高齢化対策、障害者対策」「町が住みよい対策」「交流ふれあい」「空家対策」「生活環境の安全を高める」「産業振興」「観光振興」
医療・福祉	「交通」「医療施設」「お年寄り」「人材・将来への政策」
人づくり	「地域振興」「空家対策」「ひきこもり対策」「学校教育」「産業振興」

(2) 共通する課題

共通する課題として、高齢化による移動、買い物難民、バスの改善、産婦人科や小児科といった医療施設の担保、高齢者の災害時のこと、若者のひきこもりや少子化による学校教育の課題があがっています。

また、高齢化による、事業の継承者の問題やイノシシの問題、働く場が無い等があがっています。



3 大島地区

(1) キーワード

	キーワード
まちづくり	「教育問題」「高齢化」「定住問題」「空家問題」「観光産業」「環境」「交通インフラ」
医療・福祉	「子育て・出産」「住み分けによる弊害」「介護」「食の安全」「行政のサービス」「医療の担保」

(2) 共通する課題

共通する課題として、教育の充実、地域活動が各種団体協働で取り組むシステムづくり、観光だけにとどまらず定住を考えた人を惹きつけるまちづくり、高齢化に伴う交通インフラ、出産出来る病院がないことや、大島での介護や障がいを持っている方の仕事での外出が課題としてあがっています。



4 橘地区

(1) キーワード

	キーワード
まちづくり	「人のせい、人工物のせいで自然が壊れている」「車が無いと生活できない」「人口減、過疎による家や畑の荒廃」「住民の参加意識の低下」「若い世代をよび込む」
医療・福祉	「高齢者を対象」「子どもを対象」

(2) 共通する課題

共通する課題として、高齢化による移動の問題、老老介護、高齢者が生まれ育った地域で生活することへの課題、子どもや若い世代の生活環境への課題あがっています。廃校校舎を人々が集まる場にすることが課題としてあがっています。



5 全地区

(1) キーワード

キーワード

「ストレスレスで元気で長生きの島」「大人の民泊をすべき」「大島王国」「ノアの箱舟」「からだひとつで生きれる島」「迷ったら周防大島」「みんなの知恵で稼ごう！」「個人事業主の数、日本一（裏付け未確認）」「個人事業主で生きていこう」「きたれ！個人事業主」「ふるさと納税の拡大。ラインナップの拡大」「無人島クルージング」「稼げるまち」「公告媒体、広告塔が必要」「逆行政改革。役場の人材政策で必要な場所に必要な人数を配置。」「個人事業主の交流の場の創設」「住民同士の切磋琢磨が必要」「ありえないはありえない」「都会からこぼれる人を拾え」「個人事業主、ふるさと納税、官民一体」



Ⅲ 参考資料

周防大島町まちづくりワークショップ 実施要領

1. 周防大島町まちづくりワークショップの目的

次期周防大島町総合計画の策定にあたり、町の現状及び今後のまちづくりについて町民の生の声を聞き、政策形成段階から、町民の意見を取り入れた計画づくりを進めること、併せて参加者の満足度が十分得られるワークショップとすること等を目的とする。

2. 検討結果のアウトプットイメージと総合計画への反映方法

現状の把握を通じた分野別の課題や政策・施策に対する町民の意見を、キーワード等わかりやすい形で集約することを検討結果のアウトプットとする。

また、総合計画への反映については、計画原案をつくる際、ワークショップのとりまとめ結果を受けて、それが大綱や政策・施策として示せるかどうかを判断しながら反映に努めることとする。

3. まちづくりワークショップの概要

(1) 役割分担

まちづくりワークショップの主役は、町民など参加者であり、参加者の感想や意見が出しやすい場づくりを行う。

職員については、参加希望を募り、後述するグループごとに町民と同じ立場で参加し意見を述べるとともに、できる限り、開催中は書記役や町の現状や施策の状況など必要な情報等の助言等に努める。

事務局職員は、参加者へのワークショップ開催等にかかわる案内や情報提供のほか、開催中は書記役や町の現状や施策の状況など必要な情報等の助言等に努める。

コンサルタントは、中立的なファシリテータとして、ワークショップの議事進行に努める。ファシリテータのほかに、サブファシリテーターを配置する。

(2) ワークショップの性格

ワークショップは、提示されたテーマについて参加者同士で意見交換し、アイデアを出し合い、まとめ上げる集まりで、会議の一種である。

<留意事項>

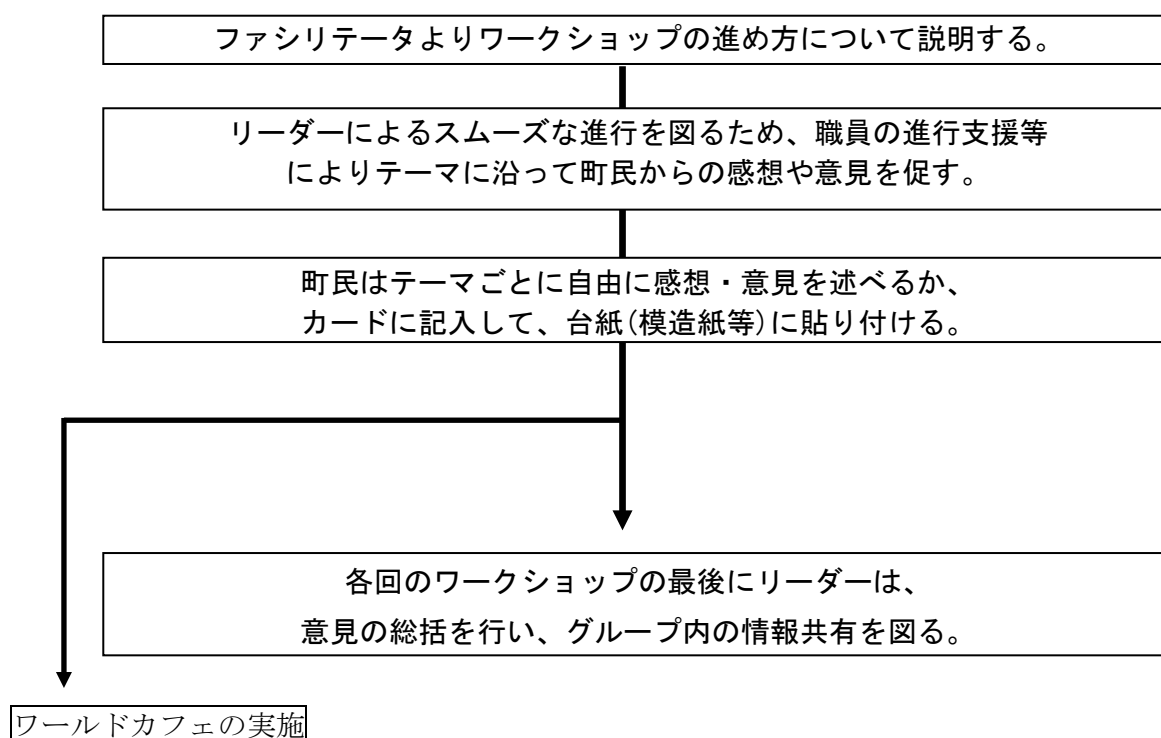
- 参加者は、みんなが気軽に自由な意見を言いやすいように協力し合うこと
- できるだけ形式張らないこと
- 周防大島町の将来について、できるだけみんなの意見を集約し、取りまとめることに重点をおくこと
- ただし、100%まとめた結論を求めないこと

<重要事項>

- 参加者全員が、自分の意見を言うことができるようにすること（他の参加者と重複した意見でも構わない）
- 各自の自由な意見や発想を途中で批判しないこと
- 特定の者・団体への一方的な批判や要求の場にしないこと
- 各自の意見に耳を傾け、これからの周防大島町の将来に役に立つ意見として、グループの中でまとめあげていこうと協力すること

(3) ワークショップの基本的な進め方

基本はカードによるKJ法を基本とし、進め方は以下の通りとする。



- 各グループの議論が一通り終わった段階で、ワールドカフェを実施します。
- ワールドカフェは、何人かの会議での討論方法の一つで、与えられたテーマについて各テーブルで数人がまず議論し、次にリーダー以外は他のテーブルへ移動し、そのリーダーから前の議論の要約・要旨を聞いて、さらに議論を深め、これを、各テーブルのリーダーがまとめの報告を全員にする方法で、参加者が少人数で自由に発言をしながら、他の人々の様々な意見にも耳を傾ける機会を増やせる手法です。

4. まちづくりワークショップの具体的な内容

(1) 地区区分

「東和地区」「久賀地区」「大島地区」「橘地区」の4地区に、「町全体」を加えた全5地区とする。

(2) 参加者

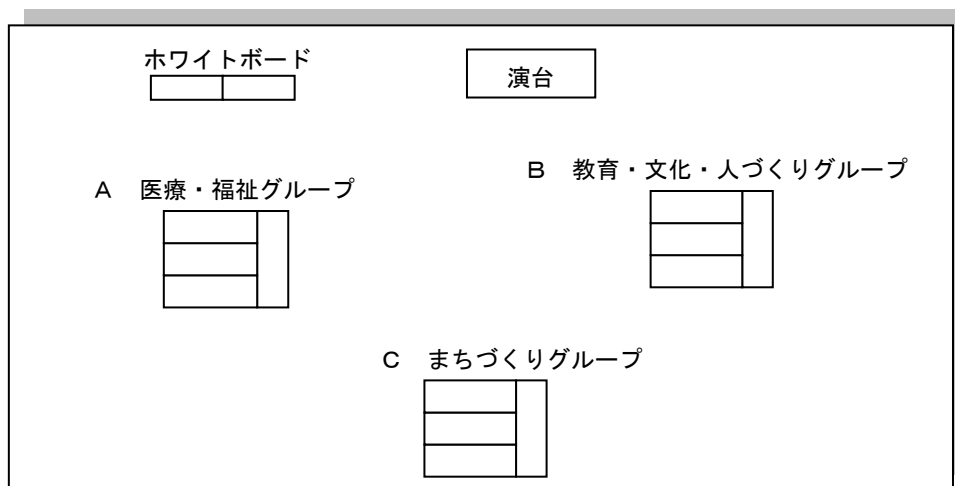
4地区については、各地区に居住ないし、通勤・通学する18歳以上の男女個人とし、「町全体」については4地区の開催日に参加できなかった住民や町全体にも参加したいという住民を対象とする。

(3) グループ分け

各地区、1グループ6～7人になるよう「A 医療・福祉グループ」「B 教育・文化・人づくりグループ」「C まちづくりグループ」の3つのグループに分け、計20人程度の参加者とする。

(4) 会場の配置について

各地区3つのグループは、会場の形状にもよるが、各グループの討議内容があまり気にならないように、あの程度間隔をとった配置が必要である。



(5) ワークショップの流れ

①開催回数

基本、各地区および町全体、いずれも1回とする。

②開催時期及び時間

基本、9月の平日に5日間(各地区1日)、各日 19:00～21:00 の2時間とする。

③作業の流れ

3つのグループは、以下の政策分野を対象として、下表の流れに示すように「課題出し」と「主要課題についての解決策」について意見交換する。

グループ	検討分野
A 医療・福祉	各種福祉（地域、高齢者、障がい者等）、子育て、保健・医療 等
B 教育・文化・人づくり	学校教育、生涯学習、文化芸術、スポーツ、交流、人権、男女共同参画 等
C まちづくり	産業全般、交通、住環境、安全・安心（防災、防犯、交通安全等）等

※参加人数によってグループ数は適宜調整する

作業の流れ
<p>【テーマ：分野別の課題出しおよび主要課題の解決策について意見交換】</p> <p>① オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画の概要、ワークショップの概要と進め方についての説明。 ・自己紹介およびグループリーダーの選出。 <p>②ワークショップ</p> <p>■各自考えている関心のある分野に対する課題出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者はカードに考えられる課題を自由に書き込み、模造紙に張り込む。 ・出された課題を検討分野ごとにまとめる。 <p>■主要課題の解決策についての意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出された検討分野の課題の中から主要課題を抽出し、それらに対する解決策のアイデアを出し合い、カードに自由に書き込み、模造紙に張り込む。 ・出されたアイデアを検討分野ごとにまとめる。 <p>■グループ発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループリーダーから意見交換の成果を発表する。

5. 必要な材料等と役割分担

各地区での必要な材料等と役割分担は、以下の通りとする。

資料等	周防大島町	コンサル タント	備 考
総合計画の概要	○		
進行表及び記入事例等		○	
模造紙(3グループ×3枚)		○	
ポストイット(3グループ×2色×各3束)		○	色指定なし
サインペン(3グループ×7本計35本)		○	黒6・赤1
ホワイトボード・専用ペン2色	○		
マグネット(5-6個)	○		